

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	ここっと。ohana		
○保護者評価実施期間	2026年2月2日		～ 令和8年2月23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	令和8年2月2日		～ 令和8年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者様が楽しく通所できるようにしている。	お子様の興味・関心に寄り添った「遊び」の時間を充実させることで、自己肯定感を育み、自発的に活動に取り組める環境を整えています。全職員が共通の理解を持ち、一人ひとりの個性に合わせた受容的なコミュニケーションを取るようになっています。	新人職員や異動職員が着任した際も、当施設の「信頼関係を第一とする支援方針」を即座に共有できるように、役職者間での意識統一を密に行っています。誰が担当しても質の高い、温かな支援を提供できる指導体制の構築を目指します。
2	就学支援に重きを置き、学校生活をスムーズにスタートできるように支援内容を考えている	職員全員が全利用者様と深い信頼関係を築けるようになっています。まずは遊びを通じて「楽しい」「認められた」という成功体験を積み重ね、自己肯定感を高めることで、新しい環境(学校生活)へ踏み出す意欲を育てています。	「信頼関係第一の支援」を全職員が等しく実践できるように、役職者間での意識共有を深めています。新人職員や異動してきた職員に対しても、役職者が同じ熱量と基準で指導にあたる体制を構築し、どの職員が担当しても質の高い就学支援を提供できる組織作りを推進します。
3	お子様の成長段階とご家庭の意向に即した、きめ細やかな個別支援の実践	定期的なモニタリングを通じて、お子様の心身の成長に合わせた支援方法を話し合っています。相談のハードルを下げるため、LINEや電話、送迎時の対話を大切に、深い課題解決が必要な際には個別面談の時間を確保するなど、「心理的安全性」を確保した相談体制を整えています。	保育園送迎等の都合で直接的な接点が限られる保護者様に対しても、連絡帳アプリやLINE等のツールを戦略的に活用し、お子様の小さな変化や喜びを共有し続けます。どんなに多忙なご家庭であっても、繋がりを実感いただけるよう、情報の透明性を高めた連携体制を継続・強化していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門職が限られている。	系列店の人数配置により、現店舗に様々な職種の職員を常駐しておくことは難しいから。	他の店舗には在籍している為、そこから該当職員にきてもらう、アドバイスを聞くようにする。また時間を確保し話す機会を設けることを検討する。
2	保護者様と直接お話をするタイミングが少ない方もいる。	お仕事や保育園送迎等の事情により、直接お会いできる機会がモニタリング時に限定されてしまう保護者様がおられるため。	連絡帳や電話等を戦略的に活用し、心理的安全性の高い相談環境を維持します。職員から積極的に「寄り添う姿勢」を発信し、いつでも相談できる信頼関係を構築します。
3	ペアレントトレーニングの実施等、家族支援や家族が参加できる研修会・情報提供の場が少ない。	個別モニタリングを通じた細やかな助言に注力してきた。一方で、家族全体や保護者同士が学び合える「コミュニティ形成」および「体系的な情報提供」の場が十分に確保できていないため。	必要に応じて、研修の開催情報の提供や店舗でできることであれば研修の実施を検討する。